

## 第2回協働推進委員会記録

日時	令和元年10月17日(木) 18:30~20:30
会場	豊明市民交流センター 多目的ルーム
出席者	委員：青山孝司、小池田忠、成田正、根尾文彦、松下正夫、三矢勝司、安井昌代、横山孝三（以上8名） 豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員（1名） 傍聴者4名

### 議 事

#### 1 前回のふりかえり

##### (1) 第2次協働推進計画について

- ・資料1に基づき説明。今年度までの事業をまとめ、成果を記載したものを来年度に提示する。

#### 2 報告事項

##### (1) 市民交流センターについて

資料2に基づき説明。

- ・豊明市民交流センター運営委員会（以下運営委員会とする）の活動として苦労したことは何ですか。

→一番苦労した点は、運営委員会とセンター職員との意思疎通をすること。一緒にやることを示しつつ、運営委員会がリードをする必要があるので苦労した。

→運営をする側と実務をする側が一体となるのに一年かかった。

- ・運営委員会のメンバーはどのように増えていったか。

→始めは拠点検討委員会を立ち上げたときの4人、その後1人増えて拠点検討委員会が終わるときに5人。その間に行った全3回のワークショップや活動中の声掛けで現在の12人になった。

- ・資料2のイベントは運営委員会で行っているか。

→運営委員会で行っている。

→「宿題やっつけ隊」などは人数の目標は立てていたか。

→今回は児童館で行ったので、児童館にいた子ども対象だったので人数目標は立てていない。今後は子どもを多目的ルームに呼べると良い。

→自分たちのところに招くこととは別に、町に出向くこと（アウトリーチ）もできるのは良い点である。

##### (2) 唐竹小学校跡施設について

資料3に基づき説明。

- ・運営委員会として唐竹小学校跡施設の設計ワークショップに参加した感想（安井）

→第1回のワークショップに参加して、理想は同じに感じた。交流して開けた場所を目指している。意見の中には、逆に閉鎖された状況も必要ということもあり不安を感じることもあった。

第2回では唐竹小学校を歩いた。子ども向けの施設ということもあり、廊下が暗い、高さが無いなどの細かいところに不自由さがあった。ワークショップの内容がエリアごとに分かれていて不安を感じた。2階の施設に入る人たちと話し合うことになったが、窓口の一元化や団体との交流について反対意見はなかったのではないかと思う。

- ・別の子育て支援センターどうして連絡を取り合って交流ができないか。
- ・運営委員会の事業で間米区の運動会に大学生が来て交流している。若い人が入ることで地域の人にも相乗効果が出ている。唐竹小学校跡利用については70人くらい入れるスペースがあると良かったが、地元の間米区としては地域活性に期待している。
- ・藤田医科大学が近いので学生が気軽に近づけると良い。
  - 若い人が来ると活性化される。学生が寄り付きやすい場所にするための意見を求めているかどうか。
- ・カフェは現在計画に入っているか。
  - 入っていない。
  - カフェやサロン、自動販売機が1台でも入ると変わってくる。
  - 経営をすると採算が取れない可能性が高い。半分ボランティアベースになる。
  - 自治会で80万かけてカフェを作った。100人くらい入れる場所でもかなり人が集まる。外国人が賑わう姿もあり、交流・憩いの場になっている。設立時にどのくらい集まるかの数値目標を持つことが大切。
  - 経営感覚を持って持続可能なことは民間がやる気がある。
- ・運営委員会が行った意見交換会で出た意見として、大きい部屋が必要な人もいれば、小さい部屋が多いほうが良い人もいる。
- ・委員会として提案してきたこととして多様な主体による協働ができる施設になると良い。
- ・大学では地域貢献できるかどうか重要視されている。
  - 大学との連携などの協働が可視化されると良い。
- ・企業の地域貢献の例として、大きな企業が人を出してくれて一緒に準備から当日までお祭りに参加してくれたことがある。
  - 豊明市だと商工会まつりで力を使うため、なかなか人を出せない。
- ・学生が来ると地域が元気になる。
  - ゼミの先生などのキーパーソンを呼び込まないと反応が無いことが多い。
  - 豊明市にある2つの大学との連携を強化できるようなことを今の市民交流センターでもやっていると良い。

### 3 協議事項

#### (1) 協働ラベリング調査結果について

資料4に基づき説明。どのような協働をしているかを明らかにし、協働を進めるための手がかりとなる資料にする方針。

- ・平均から法定受託事務を外してみてもどうか。
  - 法定受託事務は協働の余地がないため、数値の出し方は工夫する。
- ・課ごとに数値を出しているが、市民から見ると市の事業。課を越えて考えることはできないか。
  - 防災防犯対策課、社会福祉協議会、健康長寿課が要支援者に対する支援を行っていること聞いたことがある。3課でまとまらないとできない。
  - 複数の課をまたがっている事業を把握して可視化をしても良いのかもしれない。事例を出しながら調査しやすいのではないか。

#### 4 その他

第3回協働推進委員会は、会議内容を調整後、改めて日程調整する。